

ユーモラスなやりとりで笑い

春日神社へブズン

五穀豊穡を祈願し、市指定無形民俗文化財の「べブズン」が2月19日、高木町の春日神社で奉納されました。水田に見立てた境内では、親方と下男役にふんした保存会員らが田打ちから種まきまでの一連の農作業の様子をユーモラスに熱演。諸県弁を使ったおもしろいやりとりに、訪れた観客の間からは大きな笑い声が沸き起こっていました。初めてべブズンを見た永野春江さん（上川東一丁目）は「方言を使った観客との掛け合いが、面白かった。また来年も来たい」と笑顔を見せていました。



夢は日本王座5階級制覇!

都城市市民栄誉賞贈呈式

2月22日、史上初の日本王座4階級制覇を成し遂げたプロボクサーの湯場忠志さん（高木町）への市民栄誉賞の贈呈式が、市長室で行われました。式では、長峯市長が賞状や記念品の目録を贈呈。偉業達成に祝福の言葉を贈るとともに、市民に明るい希望と大きな勇気を与えてくれた功績を称賛しました。4件目となる市民栄誉賞を受賞した湯場選手は「賞をもらえるとは思っていなかったので、本当に勝つてよかった」と喜び、次は5階級制覇を目指したいと意欲を見せていました。



体を動かし心も健康

都城市健康づくり大会

都城市健康づくり大会が2月24日、総合文化ホールで行われました。各地区の健康づくり会や食生活改善推進員など約600人が参加。世代間交流で健康の輪を広げている活動報告やボールを使った太極拳などの実技発表が行われたほか、早稲田大学大学院教授の橋本大二郎さんによる「超高齢社会に対応したまちづくり」に関する講演が行われました。宮原文子さん（都北町）は「健康づくり会の活動に感じました。ウォーキングなどに参加してみたい」と健康への理解を深めていました。



春よコイ、球場の声援タカラに

プロ野球オーブン戦

3年ぶりの開催となるプロ野球オーブン戦、広島東洋カープ対福岡ソフトバンクホークス戦が2月25日、都城市宮球場で開催されました。晴天に恵まれたこの日は、県内外から4,152人のプロ野球ファンが来場。ひいきのチームのユニフォームを着てメガホンを手で声援を送るファンも多く見られました。始球式でピッチャーを務めた乙丸大資くん（明和小6年）は「緊張してボールがワンバウンドしたけど、楽しくできた。今日の出来は70点かな」と大役を終えた笑顔で話していました。



あたたかい鍋と通り会の思い

まちなかよかとこフェスタ

地域の活性化を目指すまちなかよかとこフェスタが3月3日、千日通りを中心に開催されました。かつてのにぎわいを取り戻そうと、中心市街地の5通り会（12番街、3番街、円頭庵^{えんずあん}通り、千日通り、ゆずり葉大通り）が共同で初めて開催。通り会対抗の鍋合戦が行われ、訪れた人たちはおいしい鍋料理に舌鼓を打ったり、出店で買い物を楽しんだりしていました。家族と訪れた鶴崎美幸さん（二股町）は「子どもを連れて楽しめる。鍋も全部食べてみたい」と食べ比べを楽しんでいました。



いちごの季節 春到来!

高崎いちご祭り

今年で10回目となる高崎いちご祭りが3月4日、高崎福祉保健センターで開催されました。地元農家が丹精込めて作った、いちごが市価より安く買える毎年恒例の催し。売り場には長蛇の列ができ、準備された5,200パックが2時間で売り切れる盛況ぶりでした。また、いちごを使ったお菓子や野菜、牛串なども販売され、市内外から多くの人でにぎわいました。家族と訪れていた川崎陽莉ちゃん（高崎町）は「大好きないちごがたくさん食べられてうれしい」と話していました。



かわいらしい人形たちがお出迎え

「ひなの宿」商家のひなまつり

旧後藤家商家交流資料館で2月25日から3月20日まで、「ひなの宿」商家のひなまつりが開催されました。明治時代に建てられた築110年の歴史ある建物に、後藤家に伝わる人形や着物、高城町内から寄贈されたひな飾りなど約70セット800体を展示。3月3日には、都城工業高等専門学校の茶道同好会によるお茶の振る舞いがあり、来館者らは早春のひとつときを楽しんでいました。内野瑛太くん（都原町）は「かわいい人形がたくさん飾られていてすごい」と写真撮影を楽しんでいました。



ボランティアによる地域の絆づくり

みやこんじょボランティアフェスティバル

東日本大震災から1年となる3月11日、南九州大学都城キャンパスで「みやこんじょボランティアフェスティバル」が開催されました。オープニングで市内の高校生らが書道パフォーマンスを披露。「愛 ありがとう」と書かれた作品が飾られた特設ステージで、保育園児らの踊りや歌などが披露されました。また、来場者全員が地震発生時刻のサイレンに合わせ黙とうをささげて犠牲者を追悼したあと、被災者を応援しようと「上を向いて歩こう」を合唱し、支援への気持ちを新たにしていました。



人の風景



岩手 陸前高田へ桜を捧げる会代表
(都城ロータリークラブ会長)

福崎 順久としひささん

甚 大な被害をもたらした東日本大震災から1年。津波の記憶を後世に伝えるとともに、復興のシンボルにしようと、津波の到達点に桜の木を植栽してつなぐプロジェクト「桜ライン311」が、岩手県陸前高田市で計画されました。

この取り組みに賛同し、桜の苗木を贈ろうと、都城ロータリークラブが中心となって組織した「岩手 陸前高田へ桜を捧げる会」の代表を務めるのが、福崎順久さん(妻ヶ丘町・56歳)です。

震災直後の三陸沿岸を視察した福崎さんは、特に津波の被害の大きかった陸前高田市の状況を目の当たりにして支援が必要と感じました。また、取り組みの対象となった桜が、都城市の花木であることに強い縁を感じたことなどが同会を発足させるきっかけとなりました。



発足当時の思いについて「大きな変化を起こすことは難しいかもしれない。けれども、今できることや小さなことから始めて、たくさんの方に、その思いと活動を広めていきたい」と語る福崎さん。

苗木の購入に当たっては、募金活動を行うとともに、都城造園協同組合の協力もあって、当初予定していた2,000本を上回る3,000本の苗木を確保。

3月9日には、宮崎県トラック協会の協力により、桜の成木や苗木を積んだトラックが、現地に向けて出発。3月11日には、本市から駆け付けた10人も加わり、陸前高田市で植樹祭に参加しました。

被災した地域が復興したあかつきには、「陸前高田の人たちと満開の桜の木の下で、にぎやかな花見ができることを楽しみに、今後とも支援を続けていきたい」と決意を語っていました。

盆地生まれの

元気なをいただきます



市では、4月から食育や地産地消の計画に取り組み、推進していきます。

都城の土地や気候が育む野菜や果物など、その時期に一番おいしく食べられる「旬」の食材を使い、手軽で栄養たっぷりの料理を、今後シリーズで紹介していきます。

◎問い合わせ

健康課 ☎23-2765
農政課 ☎23-2768

都城で採れる食材

ホウレン草 大根、白菜 里芋、春菊 ニンジン 小松菜 ソバ、キンカン カブ	冬	春	キャベツ グリーンアスパラガス タケノコ、さやえんどう 玉ネギ、ゴボウ お茶 ラッキョウ ジャガ芋 イチゴ
サツマ芋、 里芋 ゴボウ、きのこ類 ジャガ芋、白ネギ 大豆、山芋、セロリ シヨウガ	秋	夏	トマト、キュウリ ナス、ピーマン トウモロコシ カボチャ、シソ ニガウリ ズッキーニ ゴボウ、レタス

食育で身に付けよう 5つの力

名前を覚えよう!

1 食べ物を選ぶ力

何でも食べてみてね!

2 食べ物の味が分かる力

お料理は楽しいよ!

3 料理ができる力

トマトを育てよう!

4 食べ物の命を感じる力

運動するとごはんがおいしいよ!

5 元気な体分かる力

春のおもてなしに

鶏ゴボウ寿司

●材料 (6人分)

米	3合	
酒	大さじ2	
昆布	5cm	[A]
鶏もも肉 (皮なし)	100g	
ゴボウ	½本 (100g)	
ニンジン	½本 (80g)	
油	小さじ1	
酒	大さじ1	
砂糖	大さじ1½	
うす口醤油	大さじ1½	[B]
みりん	大さじ½	
塩	小さじ¼	
だし汁		
〈合わせ酢〉		
酢	大さじ4	
砂糖	大さじ3	[C]
塩	小さじ1	
カイワレ大根、刻みのり		

1人分	350kcal
	塩分2g
	卵を入れると368kcal
	塩分2.1g

【下準備】

ゴボウ…ささがきにして水にさらす
ニンジン…太めの千切り
鶏肉…細かく切る
米…洗って[A]を入れて固めに炊く

【作り方】

- ゴボウの水気を絞り、油を熱して炒め、ニンジン、鶏肉を加えて炒める
- ①にひたひたのだし汁、[B]の調味料を入れて汁気がなくなるまで煮て冷ます
- [C]で合わせ酢を作り、炊きあがったご飯に混ぜ、すし飯を作る
- ③に②の具を混ぜ、お好みでカイワレ大根や刻みのりを散らす
※写真は卵を散らしています

ゴボウは、食物繊維が豊富です。香り高い野菜なので、肉や野菜と一緒に料理すると臭みを消す役割を果たします。油との相性がいいので、よく炒めると甘みが増し、味が引き立つのでキンピラゴボウや天ぷらに合います。